

## 資料2

### 平成28年度 みんなで支える森林づくり地域会議 開催状況

地域会議名	開催日	主な議題
佐久地域会議	9月30日（金）	事業概要、不適正受給事案とコンプライアンスの推進
	3月1日（水）	H28実施状況、H29事業計画、今後の方向性
上小地域会議	11月9日（水）	事業実施状況
	3月3日（金）	現地調査、H28実施状況、H29事業計画、今後の方向性
諏訪地域会議	8月3日（水）	現地調査、事業概要、事業計画、コンプライアンス計画
	3月22日（水）	H28実施状況、H29事業計画、今後の方向性
上伊那地域会議	7月14日（木）	H27実績、H28事業計画
	10月26日（水）	不適正受給事案、意見交換
	3月8日（水）	H28実施状況、H29事業計画、今後の方向性
南信州地域会議 （下伊那）	7月21日（木）	H27までの活用状況、H28事業計画
	3月1日（水）	現地調査、事業実施状況、H29事業計画、今後の方向性
木曾地域会議	8月9日（火）	事業概要、H27実施状況、H28事業計画
	3月3日（金）	H28実施状況、H29事業計画、今後の方向性
松本地域会議	2月22日（水）	現地調査、不適正事案と今後の対応、H28実施状況、H29事業計画、今後の方向性
大北地域会議 （北安曇）	2月27日（月）	H28実施状況、H29事業計画、今後の方向性、補助金不正受給の概評と県の対応方針
長野地域会議	11月8日（金）	現地調査、H27事業実績、H28事業計画
	3月10日（金）	H28実施状況、H29事業計画、今後の方向性
北信地域会議	6月27日（月）	事業概要、H28事業計画
	2月28日（火）	H28実施状況、H29事業計画、今後の方向性

## 地域会議での主な意見要旨

(2～3 月分)

### ○全般

- ・ 目標に対する実績を見ると、「森林税はいらない」と見られてしまう。消化できなかった森林税をどうしていくのか、県民にきちんと説明すべき。
- ・ 制度に不備がなかったのかについても検証すべき。
- ・ 計画や事業の採択要件も途中でも変更をすればいいのではないか。
- ・ 税事業の評価は、使用額や面積だけでなく、農山村の貴重な雇用の場になっているプラス面も評価すべき。

### ○今後、整備が必要な里山について

- ・ 整備が必要な山がどのくらいあって、どのくらい進んでいて、今後、どのくらいの時間がかかるのか、いつもよく分からない。
- ・ 里山の整備が進まないのは小規模な小さな個人有林であって、相続をしないなどの荒廃山林の増加が問題となっている。一番手を付けていかなければならないにも関わらず、コストもリスクも高いところが残されている。
- ・ 集約化が困難なところは、住宅地や道路に隣接していて整備も難しいことが多い。森林税でも取り残されてしまうことが懸念される。
- ・ 規模の小さな森林は、経済活動だけでなく、山地保全や保健休養などの森林の多様な機能の発揮や利活用を視野に入れた支援措置を設けてほしい。
- ・ これまで間伐に取り組んできたが、主伐・再生林の時代に向かって動き出している。森林税が適切な財源ではないかもしれないが、主伐・更新の流れを県主導で作ってほしい。
- ・ 新しく更新する里山があってもいい。伐採後の再生林や採種育苗事業などにも森林税が活用できないか。
- ・ 国庫補助の上乗せは条件が厳しく、所有者が求める身近な森林整備が行えなくなっている。国の補助が使えない場所に導入する仕組みにした方がいい。
- ・ 里山も高齢級となり採択基準に合わなくなっている。一方で地域では整備も進めたいという要望も多く、県の里山の状況に見合った県独自の仕組みを作ってもいいのではないか。また、20年の伐採制限がネックになっているのではないか。
- ・ 健全な森林の整備や地域の活性化につながる制度であり、やりやすい制度にすれば将来へのいい山づくりができる。
- ・ 複数年にわたって整備が必要な場所もある。税事業は1年限りでなく、継続して補助をしてもいいのではないか。

## ○里山整備への地域の関わり方について

- ・ 集約化が難しいのは、単にマンパワーの問題だけではなく、不在村者が多いことが問題で、市町村の強力な支援が必要。県でも市町村をサポートしてスピード感を持って取り組んでほしい。
- ・ これから整備を進めていくためには、町村の職員を専門化するなど資質を高めていく、あるいは、ノウハウを蓄積する仕組みをつくっていく必要がある。
- ・ 一般の人たちに山に関心を持ってもらい、どのように森林づくりに関わってもらうのか考えていくことが必要。
- ・ 地域の技術者に道具の使い方などを教えてもらったことがあるが、こうした技術的な研修を各地域で実施すると里山の整備が進む。
- ・ 多様な人が取り組めるような施策を引き出してほしい。集約化に取り組んだもののまとまらなかった事例も聞いている。NPO などの小さな担い手の関わりを多くしていくような方向付けをしてほしい。
- ・ 里山の信州ブランドのような地域の特徴ある森林づくりへの支援をして欲しい。
- ・ 観光地や商店街の近くでは、緩衝帯整備を継続できるようにすることや、間伐以外にも活用できる仕組みにしてほしい。

## ○担い手について

- ・ 多くの人携わることが理想だが、間伐主体となると専門家に頼らざるを得ない状況。林業が若い人にとって魅力のある職業とする必要があり、若い人の研修などに税を活用してほしい。
- ・ 地域のランドデザインを描ける人材の育成が大事ではないか。
- ・ 職業体験などの体験活動ができれば林業への参入が増えるのではないか。これから育ていく子供たちに、森林に関わってもらえるような「人づくり」の部分をやっていくべき。
- ・ 小学校くらいまでは森林体験活動などの様々なプログラムがあるが、中学・高校時代で途切れてしまう。将来の投資と考え、林業を職業として選択できるような活動を仕掛けていくことが必要ではないか。

## ○里山整備等の見える化について

- ・ 里山の居住地に触れる部分の整備が進んでいないのが実態。目に見えるところを実施していくことが課題になっている。
- ・ 森林税で何が行われていたのか、どんな事業に使われていたのかを知っている人が少ない。結果、不信感につながっている気がする。積極的にマスコミに取り上げてもらい、県民に分かりやすく伝わるような努力をしてほしい。
- ・ 身近な森林が整備され、喜んでいる人もいる。有線テレビや報道で PR してもらうことや、森林整備の実施をアピールするために、整備時期や場所を事前に住民に周知してはどうか。

- ・ 法人税も徴収しており、事業主の関心が高まるよう、企業とのコラボのメニューを充実して欲しい。
- ・ 継続して手入れをしていく山をゾーニングして投資していくことも必要。目に見える場所を優先して整備すれば効果も見える。
- ・ 一般の人たちの目が向くのは木材利用の分野で、大きな推進力にもなる。木育や木材利用を通じて木への関心が高まり、山の手入れの重要性の認識にもつながるのではないかな。
- ・ 木育の取組も単に何か作るのではなく、小さな子供たちを集めて木に親しむ場をつくって、遊びながら入っていくようなやり方も必要。
- ・ 小学校の図工の授業では、使用する木材を材木屋からわざわざ買ってくる。授業の中で木育活動が展開できるようなことを学校や市町村に働きかけて、提案をするなどしてはどうか。
- ・ 森林での体験を通じて、「生きる力」、「考えて行動する力」を育てていかないといけない。広い意味で人材育成を考えてほしい。

### ○その他制度への希望

- ・ 松くい虫対策が地域の課題になっている。松くい虫対策を進めるためには、被害材を含めたアカマツの木材利用の促進が必要。
- ・ 幅広く使い道を考え、応用のきく制度にすることを希望。
- ・ 森林づくり推進支援金は各市町村それぞれ特徴があって、もっとやりたいこともある。予算が余っているということもあり、事業費を増やしてほしい。
- ・ 境界が問題。境界確認の財源として森林税を活用してもいい。
- ・ 木を活かした産業づくりや木質バイオマスの利用に税を活用できればいいのではないかな。
- ・ ソフト事業のメニューが多すぎ、小規模な事業でも制度が複雑で使いにくく、制度の硬直化を感じる。
- ・ 森林にいろいろな立場で関わっている人達を把握し、マッチングあるいは顔合わせすることが重要。
- ・ 国で検討されている森林環境税との違いをはっきりさせる必要がある。